和歌山ブラぶらウォッチング 7

「高津子山　～眼前に広がる大パノラマ～」（和歌山市和歌浦）

和歌浦に高津子山（標高151m、章魚頭姿山とも記される）がある。以前はロープウエィが観光ホテル「萬波」近くの新和歌浦駅と山頂駅との間にかけられ、頂上には円形の展望台が建っていた。夜になると展望台の円形の明かりが、写真にある南北に走る水軒川の水面に反射し、あたかもUFOのような光景であったことを思い出す。

そうした、かつての賑やかさはもう見ることはできないが、頂上からの景色は変わらない。春には桜が美しく、頂上にある質素な展望台からの大パノラマは以前と同じだ。東に片男波、紀三井寺やマリーナシティー、北には写真のような和歌山市内と眼下に養翠園が、西、南には太平洋の大海原が開け、改めて和歌浦が景勝地であることを再確認できる。登山口は幾つかあるが、お薦めは和歌浦小学校脇の登山口から登り、少々の汗をかいて景色を堪能しながら頂上に至り、観光ホテル「萬波」の方に降りて行くコースである。

（取材：萬羽）

「宮井川　～豊かな水の流れに心癒される～」（和歌山市井ノ口）

旧中筋家旧宅見学の帰り道、通りがかりに見た用水路と周囲の家の美しさに見とれてしまった。用水路の両岸には旧家が建ち並び、水は橋や家の土台すれすれにゆったりと流れている。車を停め、暫し水路に沿って歩いてみた。ここは熊野古道の一部である。古道を歩く観光客も暫しここの景色に見とれ、写真の旧家を訪れる人も多いという。歴史を紐解くとこの用水路、古くは古墳時代に開削され、古代律令時代にはおよそ600ｈａに及ぶ平野部の水田を潤す一大幹線水路として国衙に管轄されていた。当時の取水口の幅は破格の約１１ｍもあったそうである。その後国衙の権威の低下に従い、それに代わって本来的な関係を持っていた日前宮が管理するようになり、そこから「宮井」と称されるようになったとの事。

それはさて置き、ここから上流に300mほど歩を進めると、水田地帯に出る。この満々と水を湛えた水路が動脈のように水田の間を流れる様は、人間の営みの偉大さを感じずには居られない。

（取材：萬羽）